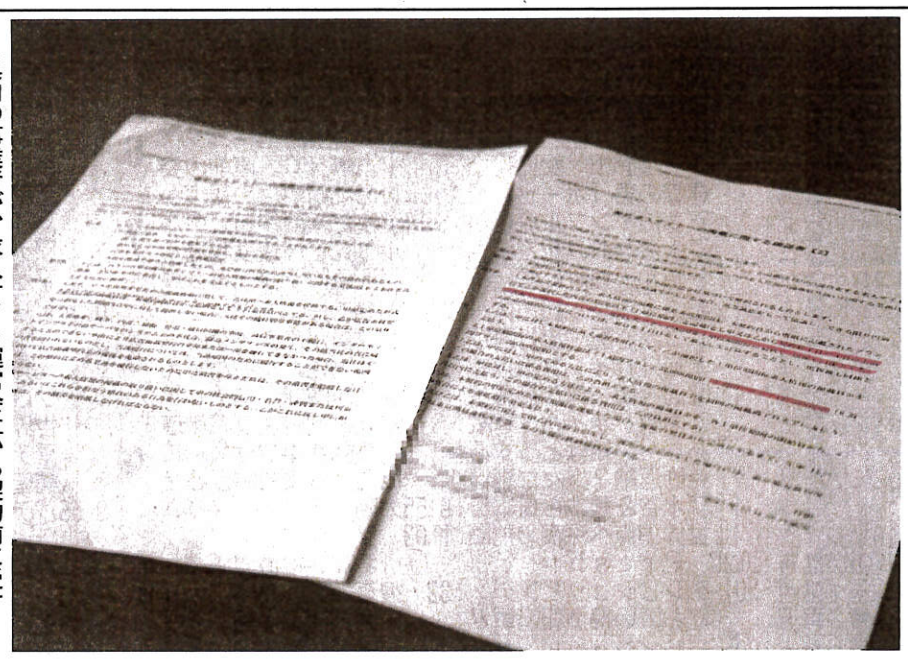
「無料で広告掲載」→有料に自動移行

求人サイト 高額請求相次ぐ

県内中小 人手不足につけこむ？



県内の事業者が、求人サイト運営会社から契約前に受け取った契約条項の確認書。一定期間たつと契約が自動更新され、有料になるとの条項（着色部分）に関し、十分な説明はなかったという（画像の一部を加工しています）

県内の中小企業や自営業者に対し、一定期間「無料」をうたって求人サイトへの広告掲載を勧誘し、期間がたつと契約を自動更新し、高額な掲載料を請求する例が相次いでいる。弁護士や司法書士は「深刻な人手不足につけこんでいる」と指摘し、請求には安易に応じず相談するよう助言。厚生労働省はこうした請求は違法ではないとしながらも、契約時に無料期間終了後の料金などを入念に確認するよう注意喚起するチラシを、公共職業安定所で配り始めた。

県くらし安全・消費生活課によると、2018年度に県内4カ所の消費生活センターと市町村の窓口に寄せられた相談は、3月26日時点で少なくとも34件。同課は「個人消費者からの相談ではないため詳細は把握していないが、16、17年度の各10件程度から増えた。

勧誘を受けた事業者の話などによると、持ち掛けられたのは介護施設や保育施設、医療機関、製造業など人手不足の業界が中心。求人サイトの運営業者は電話やファクスで「今なら3週間無料で広告掲載できる」などと誘う。無料期間が終わると有料掲載に切り替わることは、契約前後に届く書類に記されているが、多くは裏面や小さな文字で目立たず、口頭での説明はほとんどない。無料期間が終わる頃に十数万～三十数万円の請求書が届くという。

広告は運営業者の求人サイトに載るが、検索結果の上位には入らない例が多い。

消費者問題に詳しい山岸重幸弁護士（長野市）は「契約書の見落としを前提とした手口。民法が無効と定める、公序良俗に反する行為だ」と指摘。安易に請求に応じるべきではない、とした上で「小さな取引でも契約書をしっかり読んで、3週間の掲載で求人に効果が出るか、冷静に考えてほしい」と助言する。

一方、求人サイトを運営する都内のある業者は取材に対し「契約前に有料になることは書面で説明しており、問題はない」と説明した。

介護や保育施設に勧誘電話

契約条項 小さな文字

「施設の介護職員数は、国の最低基準を満たすのが精いっぱい。わらにもすがる思いだった」。上田市の有料老人ホームは、広告掲載が一定期間無料とうたった求人サイトを利用。期間終了後、十数万円を請求され、支払ったという担当者の男性は悔やんだ。

慢性的な人手不足が続く介護業界。仲介業者に介護職員の紹介を頼むと、1人当たり80万円ほどの紹介料が必要になる場合もあるという。求人サイトの運営業者からこのホームに電話があったのは1年半前。「3週間無料」の宣伝文句に、担当者の男性は「乗ってしまった」と振り返る。

送られてきた書類は大きな文字で「無料」を強調しており、小さな文字の契約条項にまで細かく目は通さなかった。約3週間後に掲載料を請求された際は「目を通していなかったこちらが悪い」との気持ちになったという。

須坂市の保育施設は、求人雑誌に保育士の募集広告を出した直後の1月、電話で勧誘された。対応した女性職員（33）は「3週間だけ」と念押しし「期限の更新前に電話をもらい、契約解除の手続きをすると約束した」。しかし、電話はなく、16万2千円の請求書が届いた。

直後に女性職員は業者をただしたが「電話するなんて言っていない」との返答だった。男性園長（48）に「業者と早く縁を切ろう」と助言され、交渉して値切った7万5600円を支払った。

一方、薬剤師の募集を求人サイトに掲載し、23万7600円を請求された北信地方の病院は、弁護士に相談。業者側に支払いを拒否する内容証明を2回送ったところ、請求は止まった。弁護士への相談費用は5万円。医療機関を経営する男性（45）も司法書士に対応を一任し、13万5千円の支払いを免れた。

こうした事例で相談を受けたことがある司法書士の宮沢智史さん（36）＝須坂市＝は、十数万円の請求額を「専門家への相談費用を考慮すると払ってしまいがちな額」と指摘。「不当な請求をされても払わない、と意思表示することが大切」としている。

（松崎 林太郎）

被害者の腕 抵抗時に傷か

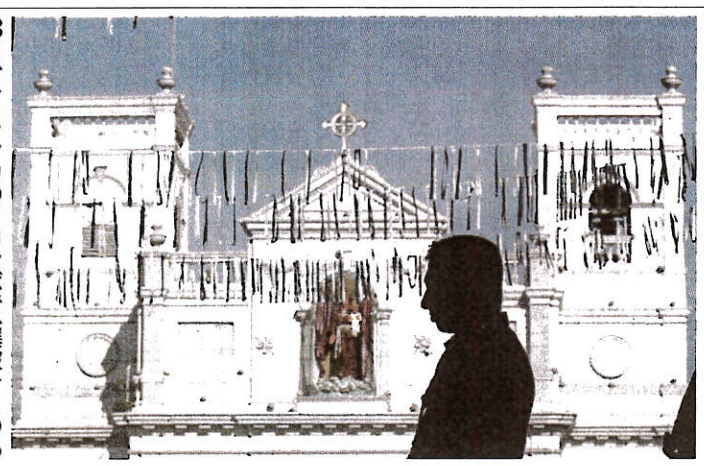
飯田82歳殺害 凶器は見つからず

飯田市松尾清水の無職小林正敏さん（82）が自宅で殺害された事件で、小林さんの腕に、犯人に抵抗した際に負ったとみられる傷があったことが3日、小林さんの頭部に傷があり、署員が小林さんの自宅

一方、住宅内やその周辺からは殺害に使われたとみられる凶器が見つかっていないことも判明。捜査関係者によると、小林さんの頭部に傷があり、署員が小林さんの自宅

定を急いでいる。

事件は18日、近所の住民から「小林さんを最近見ていなくて心配だ」と同署に通報があった。



23日、スリランカのコロンボで、爆破テロのあった聖アンソニー教会の前で、犠牲者を悼み黙とうする治安部隊員（ロイター＝共同）

完全復旧までに数ヵ月

学生時代から海外に関心

スリランカテロで犠牲 高橋さん

同級生「今後も活躍するはずが」

スリランカの連続爆破テロで犠牲になった高橋香さん（39）は、学生時代から海外への関心を持ち、熱心に勉強していた。「未来があったのに」「人生を奪われ残念でならない。理不尽だ」。夫や子どもとの幸せな生活が一転。親族や知人らは突然の悲報に肩を落とした。 【4面参照】

「若くて未来ある人だったのに亡くなってしまい悲しい」。香さんの夫光さん（39）は岩手県北上市出身。光さんの父親は23日、北上市の自宅で「報道以上の情報がなく、何が起きたのか分からない。話せることがない」と絞り出すように話した。光さんから22日に「爆発に巻き込まれ、妻が亡くなった。自分もけがを負った」との電話があった。

父親宅近くの住人によると、光さん、香さん夫婦は子ども2人とスリランカに在住。光さんは現地の日本料理店でシェフをしているという。近くに住む石川和子さん（78）は約3年前、子どもと歩く香さんの様子を見たという。「幸せそうだった。まだ若く、子どもも小さいのに、とても残念だ」と語った。

東京都内にある香さんの親戚宅の近くでは、親戚の知人遺の一員に選ばれたこともあったという。小町さんは「卑劣なテロで、幸せや人生を奪われ、残念でならない」と悔しさをあらわにした。

香さんと高校のクラスメートで、席も近かったという都内の男性は「秀才というイメージで、自分の内気な性格のせいもあり、あまり話せなかった。もっと話しておけばよかった。これからも海外で活躍するはずだったのに残念だ」と悲しんだ。

香さんは、その後上智大を経て首都大学東京の大学院へ。大学院時代を知る公立鳥取環境大の角野貴信准教授は「よく笑う人で、楽しく話す人だなという印象を持っていた。研究も熱心にやっていた」と話した。

高橋香さん（フェイスブックから）

○…木曽 耕す、昔ながらの田起こ

糖尿病から腎臓病へ 危険示す目印

東北大教授ら発見

糖尿病患者の中から、後に腎臓病になる危険性が高い人を探す目印となる物質を突き止めたと、東北大の阿部高明教授（腎臓内科）らのチームが23日、英科学誌ネイチャーコミュニケーションズに発表した。症状が出る前から採血で調べられる。阿部教授は「食事療法などを早く行えば、透析が必要になる人を減らせるだろう」と話した。

チームは、糖尿病になったラットは血中のフェニル硫酸という物質が増えることを発見。この物質をマウスに食べさせると腎臓が傷むことも分かった。また岡山大が持つ糖尿病患者362人のデータを調べ、この物質の血中濃度が高い人は、2年後に腎臓の機能が低下することも確認した。

フェニル硫酸は、肉やチーズに含まれるチロシンというアミノ酸が材料になるため、食べる量を減らすことで腎臓を守れる可能性があるという。

糖尿病の人のうち腎臓病になるのは3割ほど。現在は尿中に出るアルブミンというタンパク質で初期段階を検知しているが、より早く分かる目印が待たれていた。

祭用 笛・太 幕（お寺 のぼり はっ ちょう
広告についてのご意見・ご相談はJARO
サスナカ IT情報通信 セキュリティ設備
トラクター買取強化中!! 買取金額20%UP! 買取りの流れ ①お電話にて
未使用 プリンターの入れ替え・間違えて買ってしまった
自然食品 元気の源 あなたの健康をサポート 白樺のエキス チャガ茶
まちの事件をさがせる Webガイド